

～子どもの心(精神)の発達には、

基本的筋道があり、飛び級はありません！～

勁草学舎は案内書のミッション（使命）で、「子どもは精神発達が健全であっても、ある段階で多少の混乱した言動をすることがあります。その言動の背景を見極め、適切なメンタルケアをすることによって、混乱を最小限に抑えることができます」と表明しています。難しいのは「その言動の背景を見極める」ことにあります。例えば、既に思春期を迎えた子どもが、母にベタベタと甘えたり、そうかと思えば次の瞬間には物を投げつけたり殴ったりなど、暴力行為に走る言動をどう理解すればいいのでしょうか。

人間は身体と心（精神）を持ち合わせた存在です。身体的成長は多くが遺伝の支配を受けるのに対し、精神については、遺伝子に決められた情報網が形作られるので人間らしくはなりますが、社会や文化にとけ込むためには高次の神経活動が必要であり、それは経験や学習を介して作られるものです。つまり子どもの精神発達は、周囲にどんな環境が用意されているかに左右されるということになります。

親がこのことを知っていれば、自ずと環境に配慮し、子どもへ観察の目を向け、その時点での発達が順調であると確認できれば、子どもを安心して守り育てられるのではないのでしょうか。子育てに求められるのは、「準備性」と「観察眼」、そして「子ども主導」だと思います。

1993年3月に初版された著書「母をなくした日本人」のまえがきに、『ある言語療法士が、絵本を示しながら4歳になる少年に熱心に語りかけていた。少年から「オウム返し」ではなく、「生きた言葉」を引き出したくて。だが少年が関心を示そうとしないので、ページを繰ってはいよいよ熱心に語りかけた。少年はこころもち顔を傾げ、あらぬ方へ視線をやったままである。しばらくして語りかけをやめ、沈黙をともにしたとき、彼ははじめて、少年の耳が先ほどから追いつけていた鳥の声に気づく。彼も鳥の声に耳を傾けながら、「いい声だね」というふうに目で語りかけると、少年もまた軽くなずくようにして目で答えを返してきた。少年が言葉を自在にするまでにはなおしばらくの時間を要するのだが、それが少年と彼との「会話」のはじまりであった。もし言語療法士が少年から言葉を引き出すことだけに執着していたら、鳥と交響している少年の豊かな心的世界には、容易に気づけなかったろう。少年にとって、そのとき言語療法士はまちがいに眼前に「居る」のだが、「生きた言葉」を引き出してくれるはずのその人は「不在」であった。言語療法士であっても、それが一人の子の母親であっても同じことだ』とあります。

この言語療法士は「自分主導」から「子ども主導」に自分を置き換え、子どもを「観察」し、はじめて少年と同じ立場に立てた。そこから生きた会話が始まったということです。

親がこの言語療法士のようにであれば、子どもの心はどんな時も元気に成長し続けます。そんな親になっていただきたいとの願いを込めて、「精神発達講座」を組み立てました。どうぞご参加くださいませう。

記

- ① 乳児期：0～1 歳頃まで
 - ◎精神発達課題：「自己信頼感」vs「自己否定感」
 - ～赤ちゃんにとって一番大切なことは、『守られている』と感じられることであり、それは一生を支配するほど大切な感覚です～
 - ～生まれた日から始められる「母のまなざし」「母子一体感」「母のことばのリズム」が、赤ちゃんの一生を守り続けます～
- ② 幼児前期：1～3 歳頃まで
 - ◎精神発達課題：「自律心」vs「恥と疑惑」
 - ～赤ちゃんは『自分の欲求』と、お母さんからの『ダメ!』の間で、コントロール能力を身につけ始めます。～
 - ～お母さんから質問や指示をするのではなく、ことばをふくらませましょう。～
 - ～おもしろいことはすぐ覚えます。聞くことは楽しい! と感じさせましょう。～
- ③ 幼児後期：3～6 歳頃まで
 - ◎精神発達課題：「自立心」vs「罪悪感」
 - ～『いやだ!』『ボクがやる!』に代表される『第一次反抗期』が始まります。～
 - ～子どもの努力をほめましょう。自分ができることは自信につながります。～
 - ～子どもは会話の達人です。やりとりを楽しんでください。～
- ④ 学童期：6～11・12 歳頃まで
 - ◎精神発達課題：「勤勉性・主体性」vs「劣等感」
 - ～学ぶ喜びを体験することを通して、自分の可能性を伸ばしていく時です。～
 - ～脳のネットワークは、神経細胞と軸策によって形成されますが、情動が高ければ新しい軸策を育てることが可能です。～
- ⑤ 思春期：11・12 歳～20 歳頃まで
 - ◎精神発達課題：「自己同一性」vs「自己同一性拡散」
 - ～自分はこれからどこにどう立ち、どのように生きて行くのかを模索する時であり、これまでの発達課題がどうであったかが徹底的に問われます。そのためにさまざまな問題行動が顕在化することがあります。～
 - ～精神的誕生の時です。～

開催日<<毎週土曜日>> ①7/24・②7/31・③8/7・④8/21・⑤8/28
時 間<<毎回>> 13:30～15:30
受講料<<全5回>> 13,100円
会 場<<毎回>> 勁草学舎 3階セミナールーム

申 込 書

下記講座の参加を申したいします。

平成 年 月 日

講座名	「心の発達編」		
氏名		TEL	
		FAX	
住所	〒		

お申込窓口： 〒110-0015 東京都台東区東上野 3-9-5 育伸社第2ビル